俳名

天明を盛、歴々たる名家、○中略狂歌師に、四方赤良、後に蜀山人、朱羅漢江、○山崎元の木阿彌、○金子大屋裏住、○久須美孫左衛門、鹿津部眞顏、○北川嘉兵衛、宿屋飯盛、○石川雅望、錢屋金持、○大坂屋甚兵衛、右いづれも、おのれ京山十五六歳の時、見聞の名家なり、

〔百家琦行傳四〕朱樂菅江

菅江は武家なり、東武牛込に住して、氏は山崎、名は景貫、○中略這人その面、蜀の關羽に似たるをもて、綽名して關公と云けるを、其まゝ用ひて關江と字せしを、後に一字あらためて漢江とも書し、常に龜戸天滿宮を信迎せしによりて、菅の字を用ひて、亦菅江と改めけり、

〔狂歌百人一首〕蘆邊田鶴丸、別號三藏樓、○歌略下同　紀乎佐丸　筆常持、別號巴扇堂　豐年雪麿、別號月花庵　少々道賴、別號花遁屋　三陀羅法師、別號千龜庵　一寸法師、別號瓢箪園

〔狂歌現在奇人譚初編上〕鬼外樓內成の傳

內成は、東都舟町に住して、氏は藤井、俗稱を勘次郎といふ、蜀山翁より福廼屋といふ號をおくられければ、五老先生また鬼外樓と號られたり、

〔嬉遊笑覽三詩歌〕新撰狂歌集に、前大上戸朝又、宇治茶大臣などは、酒の歌、茶の歌なれば、それに附てさる名を書るにて、其讀人の常に用ゆる戲名には非ず、又池田正式が布留田造、平群實柿などもも一時作り設し名なり、後世のごとき、名を作りて用ひたる者はなく、皆實名を書り、誹諧師も、宗匠は僧形なれば、字音に呼ぶ名をつけれ共、俗體の者は、名乘を用ること連歌の如くなりしに、後世常の人も宗匠めける名をつくることは、大かた談林よりこのかたのことなり、是を俳名と呼、

〔俳家奇人談中〕松尾桃青

松尾忠左衛門は、伊賀上野藤堂何某の近臣なり、○中略深川に庵を結ぶに、みづから芭蕉を植て樂しむ、是より世に擧て芭蕉庵と稱す、泊船堂、無名庵、糞虫庵、瓢中庵の諸號あり、初の名を宗房といへり、後桃青と改む、